

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 193号

平成30年5月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

カウマン夫人著『日の出に向かって』より (5)

5月3日

…主はその愛する者に、眠っている時にも、無くてならぬものを
与えられるからである。(詩篇 127・2)

もし私たちが、主イエス・キリストと交わることに時間を費やす
ならば、たとえそのために睡眠を失ったとしても、決して損とはな
らないでしょう。

主は、私たちが恐ろしいと思う物事に対する態度を変えさせたり、
私たちをいら立たせ悩ませる人々に対する愛を、心に与えてくださ
います。私たちを疲れさせ、睡眠に追いやる者は、長時間の労働で
も弱い肉体でもありません。それは心配であり、思い煩いです。主
イエス以外に、私たちの心配を取り除き、不安な思いを静めること
のできる方はありません。

時間と潮の流れを見ると、世界の広さが解る

しかし、神はガイドです

それだから、急いではいけません

最善を行ない、あとはすべて委ねる者は祝福されます

それだから、心配してはいけません。

チャールズ・F・デーモス

「主よ。あなたは私にいつも、私の重荷が楽になるとは必ずしも約束されません。しかし、あなたは私の重荷の中で私に安らぎを与えることを、いつも約束しておられます」。

ジョージ・メイソン

5月6日

神はすべてのものをその時にかなって美しくつくられた。(伝道の書 3・11(改訳聖書訳))

薄明りを残す夕暮れの闇は、這うように速くやってきます。過ぎ去ったものは、朝のダイヤモンドの輝きのある夢であり、過ぎ去ったものは昼間の金色の輝きです。

ひとりの婦人が、庭園の門のそばにある小道をぶらぶらと一人で歩いています。婦人の髪の中には白いものが幾筋もあり、そして、疲れ果てた彼女の眼は、あたかも人生の重荷を降してそこから立ち去るかのように、深まり行く闇をまるで物悲しげに見入っていました。

ところで、彼女の震える手で入り口の門を開けながら、彼女はもう一度来た道を振り返ってみると、そこには月明かりの中にきらきら輝く銀の小道があります。光輝く顔と一杯に伸ばした腕とともに、白いベールに包まれた思い出が彼女の心に現われます。

「ああ、何と美しい世界なのでしょう。婦人はつぶやく。「今まで生きて来られ、しかも愛してこられたことに、私はとても感謝しています」。

イダ・マックグローン・ギブソン

5月11日

あなたがいただいている偽りのない信仰を思い起している。この信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケとに宿ったものであったが、今あなたにも宿っていると、私は確信している。(テモテⅡ1・5)

母親について、なつかしい思い出を持っている人は、幸いである。

それはまるで木の花の芳しい香りのように、私たちの方に漂ってきます。他の歌声は失われるかもしれませんが、しかし、母親のうっとりさせる思い出は、私たちの魂に長く響き渡ることでしょう。

神が星や太陽の光、雨や花や木々をお造りになった時、神は同じように母親をお造りになりました。それは、彼女がこれらに似ていたからです。

グレース・F・テウルード

若さは色あせ、愛はなくなる。友情の絆も地に落ちるが、母の内
にあった希望は、それらすべてよりもずっと長く生き続ける。

5月12日

あなたを生んだ父のことを聞き、年老いた母を軽んじてはならない。(箴言 23.22)

私は、年老いた母親たちを愛します

白い髪に包まれ、優しい瞳を持ち

眠っているあかん坊の上に祝福のささやきを語る

成熟し柔らかな麗しい唇を持った母親たちです。

彼女らの静かな気品の中に

安息日の午後の静けさに語りかける何物かがあります

彼女らの衰えることのない深い瞳の中にある知恵は

どんな哲学よりもはるかにまさっています

優しさに色どられた年月は、彼女たちにとって

銀の糸が縫い込まれた美しい肩掛けの似合う年齢…の一方

忘れ去られた歌のすべての響きは

彼女達の言葉にまろやかさを添えるために加わる…ように思えます

ああ年老いた母親たちよ！

彼女たちが通り過ぎると

人は再び昔の公園の散歩道や、昔のバラや、昔の優しい愛をそこに見るのです

チャールズ・R・ロス

5月16日

わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。(コリントⅡ3・18)

私たちは、F・B・マイヤー博士の恵みに満ちた人格を思い出します。博士がその生涯を終えたとき、人々は彼について次のように言いました。「博士は82歳になろうとしていました。彼は高齢になっても安息の静けさを見出していたので、その豊かな力によって最後まで働きました。博士はその安息の静けさを怠慢の内ではなく、休息に満ちた神との交わりの内に見出したのです。」

博士の顔は、年を取るにつれてますます美しくなりました。世の悲しみと神の平和——博士は日々これら双方を経験していました——が博士の性格を形作り、磨いたからです。博士は、人々に博士の主であるイエス・キリストに対する好意をいだかせるような存在でした。博士は常に緑を絶やさない木でした。」

愛らしい顔は、神と共に歩み、語り合った人のしるしである。

5月18日

このことは私から出たのです。(歴代下 11・4)

八方ふさがりですって？そうかもしれませんね。

あなたが逃げようとしているうちは

世的な思い煩いを遠ざけなさい

しかし、あなたを心配して下さる方から離れてはいけません

多くの無駄な探求をやめなさい

キリストは日々あなたの客となって下さいます

あなたの周りにある壁も、キリストを締め出すことはできません

キリストはあなたの求めを聞いてそれに答えてくださいます

神と共に隠れなさい

そこには素晴らしい可能性

そしてあなたがベストを尽くしたなら

後のことは神の御手に安心して任せなさい

どこに、また何のために、最も僕が必要かを言うことができるのは、
主人です。賢明な主人は、決して僕を空しく働かせることはしません。
ん。

5月19日

あなたには、やみも暗くはなく

夜も昼のように輝きます。

あなたには、やみも光も異なることはありません。(詩篇 139・12)

アメリア・バールは 84 歳の時、66 冊目の本を書きました。彼女のそのような活動力の秘密は静けさと暗闇でした。静けさと暗闇は、あらゆる形の命に必要なものです。植物はずっと咲いていることはできません。地中で静けさと暗闇の中にある時が必要です。木々には冬の休みが必要であり、すべての動物は眠らなければなりません。

人間は日々死に、無に、休止に、静けさに退くことなしに、能率のよい生活をつづけることはできません。私たちが夜、身を横たえて眠る時、体中の目に見えない働き人たちが皆その仕事にとりかかり、私たちがきれいにし、修理し、たくわえ、調整してくれるのです。それはちょうど帰ってきた機関車に掃除夫たちが群がるようです。これらの働き人たちは、静かな暗い時に働くのです。

これは心についても同様です。…

眠るか眠らないかを心配することはありません。只静まりなさい。静けさと暗闇の中にいる時にこそ、あなたの生活がごったがえしていたために、今まで聞くことのできなかつた静かな細い御声を聞く時です。あなたが神を見出すのは、そこでなのです。

5月25日

兄弟たちよ。わたしは既にとらえたとは思っていない。ただこの一事を勤めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。(ピリピ3・13・14)

今日の聖句について驚くべきことは、この言葉が、年を取って、まもなくその生涯を終わろうというひとりの人によって書かれたということです。このように信仰に進んで来た人たちが、その祭壇の火にさらに新しい燃料を燃やそうとしているのを見るのは、私たちに対する励ましでもあります。常に戦いに臨もうと身構えて、若い日の快活さをもって、歌を歌いながら勇敢に悪魔を倒そうと進みゆく人は、感化力を持っています。

最後の日が近づいた時、ローマの牢獄でパウロはどうだったでしょう。

パウロは言います。「前のものに向かって体を伸ばしつつ、……キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと務めている」。

この泉から飲んで、あなたの魂を力づけなさい！

5月31日

主はおのが民を喜び、
へりくだる者を勝利をもって飾られる。(詩篇 149・4)

「寒くはないかい？」ひとりの人がどんより曇った日に、新聞売りの少年に声をかけました。「寒かったです。あなたにお会いするまでは」。通りの小さな詩人は答えました。

フィリップス・ブルックスは——血によってきよめられた——きよい心の持ち主でした。彼がボストンの通りを歩くのを見ると、たといそれが暗くどんよりした日でも、輝いた光に満ちた日になりました。ボストンのある門口で、ひとりの男がある時、不意の嵐の中で避け所を見つけました。あとで彼は、「その日はとても輝いたものになりました。その人が私と一緒にその門口に立っていてくれたからです」と言いました。その日、その男と一緒にいたのはフィリップス・ブルックスでした。何かしたわけではありません。ブルックスは、ただクリスチャンだったというだけです。それだけで、彼は他の人の人生に光を輝かせることができたのです。…神がその指を触れられた魂を持った人の及ぼす影響は、暑い部屋に吹き込む新鮮な空気のようなものです。私の知っている何人かのクリスチャンは、輝く6月のバラの息吹よりも甘い香りを放っていました。